

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

岡山県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
和気町立佐伯中学校 和気町立和気中学校	和気町教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
和気町立佐伯中学校	https://saeki-jhs.wake-schoolweb.jp/2022-05-12-05-01-53
和気町立和気中学校	https://wake-jhs.wake-schoolweb.jp/2018-05-18-02-35-54

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
和気町立佐伯中学校	https://saeki-jhs.wake-schoolweb.jp/2022-05-12-05-01-53	https://saeki-jhs.wake-schoolweb.jp/2022-05-12-05-01-53
和気町立和気中学校	https://wake-jhs.wake-schoolweb.jp/2018-05-18-02-35-54	https://wake-jhs.wake-schoolweb.jp/2018-05-18-02-35-54

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

「オーストラリアの学校との遠隔交流授業」や「町内のALTとの交流授業」を教育課程に計画的に配置し、目的意識をもって既習事項を活用する場面を設定するとともに、異文化への興味・関心を喚起し、理解を深めている。

また、英語担当者協議会を開催し、町内の英語科教員の共通理解を図るとともに、各校常駐ALTの派遣会社とも連携して取組を推進している。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

「オーストラリアの学校との遠隔交流授業」については、学校及び和気町教育委員会のホームページにおいて授業の様子を紹介している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、ますます国際化する社会の中で、グローバル感覚を身に付けた人材を育成するために、英語教育の充実を重要項目と位置付けて行うものである。英語を学ぶことが好きな子どもたちを増やし、さらに国際的な視点をもって、誇れる故郷をいろいろな形で発信し、地域→県内→国内→世界中の人々と、臆することなく意見を交換しながら和気町を発展させていけるような人材を育成するため、「やりとり」を中心とした「オーラルコミュニケーション」の授業を実施している。

「オーラルコミュニケーション」の授業は、既習事項を活用した多面的なコミュニケーション活動で構成されており、通常の英語の授業で身に付けた知識・技能の活用であり、日常に生きる力の育成につながっている。令和6年3月実施の生徒アンケートでも、約81%の生徒が「英語特区の授業は英語によるコミュニケーション力の向上に役立つ」と回答し、授業の重要性や有効性を実感している。

一方、「英語の勉強が好きだ」と回答した生徒は約52%、「外国の人と友達になったり外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と回答した生徒は約62%であり、令和5年3月の結果より向上しているものの、興味・関心をもって主体的に取り組んでいる生徒の割合は十分とは言えない。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

令和6年4月に実施された岡山県学力・学習状況調査の「英語」（第2学年）においては、町の平均正答率が県・国を大きく上回り、特に「活用」の区分において顕著であったとともに、令和5年4月実施同調査における同一集団の結果と比較して、伸びも見られ、聞くこと・読むこと・書くことの技能がバランスよく定着していた。また、質問紙調査の「英語の授業の内容はよく分かる」という設問においても、肯定的回答率が県を上回っており、特別の教育課程実施による効果があったと考えられる。

オーストラリアとの遠隔交流授業や町内ALTとの交流においては、少人数のグループ編成や課題解決的なテーマ設定など、更なる充実を図り、生徒の目的意識も高まってきたが、意見交換の場面における即興的な「やりとり」においては依然として課題が見られる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を解決していくためには、小学校から実施している遠隔交流授業を児童生徒の主体性が発揮される内容や方法に改善していく必要がある。そのために、各授業の明確な目標設定、英語や外国への興味・関心を喚起し、課題意識を生む授業計画や学習環境づくりなどを推進し、通常の英語科の授業で身に付けた知識・技能を活用する場としての「オーラルコミュニケーション」の授業を充実させていく。また、令和4年度から導入した英語4技能習熟アプリケーション「English 4 skills」による「オーラルコミュニケーション」での計画的な取組を進めるなど、一人1台端末の更なる有効活用を図っていく。さらに、グローバルな視点や感覚を身に付けることにもつながるような協働的な課題に取り組む授業改善を、令和6年度も継続していきたい。